



熊野座(岩戸)神社 国名勝に指定

縁結びの神様として親しまれている熊野座神社は、地元で岩戸神社とよばれ、洞窟の中にあります。洞窟入口の広さは日本最大といわれ、近年ではパワースポットとしても注目されています。昔、例大祭になると参道いっぱいに出店が並び、非常に賑やかだった情景を思い起こします。また、参道入口には、熊本名水百選で、神様の水と伝えられている長命水もあります。

目次

6月の定例会	2
4月の臨時会	3
常任委員会の報告	4
一般質問	5~11
行政視察報告	12

球磨村世帯数 1,548世帯

人口 4,026人 男：1,915人 女：2,111人

(平成27年7月1日現在)

班長の活動費として578万円

班運営助成金を廃止し、 新たに班長活動助成金に



6月定例会は、6月8日から11日までの4日間の日程で開催されました。今定例会では、報告2件、条例の改正1件、平成27年度補正予算3件が上程され、いずれも原案のとおり可決しました。

また、一般質問では、田代利一議員、犬童勝則議員、高澤康成議員、多武義治議員、舟戸治生議員、嶽本孝司議員、小川俊治議員の7人が登壇し、施策や行政課題など執行部の考えをいただきました。



工事が進む役場裏の急傾斜工事

初日の8日には、松野議長の開会宣言後、3月定例会以降の諸般の報告、舟戸議員による例月現金出納検査結果報告、また、人吉球磨広域行政組合議会の報告を嶽本議員、人吉下球磨消防組合議会の報告を高澤議員が行いました。次に執行部から平成26年度

一般会計及び介護保険特別会計に関する事業費の中で、いずれも年度内に完了に至らず、繰り越しを行った予算について報告がありました。その内容は、一般会計関係では、庁舎耐震改修事業、役場庁舎裏急傾斜地崩壊対策に関する用地取得等の10件の事業で、合計4億6,962千円、また、介護保険制度改正に伴う地域包括支援センター事業システム改修に関する事業で、1,939千円となっています。

条例関係は、球磨村介護保険条例の一部を改正する条例で、国の法律改正に伴い、村でも低所得の方の「第1段階」保険料が、年額34,200円から年額30,780円へと改正されました。適用期間は、平成27年度から平成29年度とされています。

予算関係では、平成27年度の一般会計及び2つの特別会計において補正予算が編成されています。一般会計では、班長活動費助成金、定住促進住宅建築等工事、移住定住促進事業委託料、子育て世帯に対する臨時特例給付金、多面的機能支払交付金、林道東保線実施測量設計業務委託料、林道広野線舗装工事、林道丸尾線改良工事、柳詰砂防関連排水工事、人吉球磨日本遺産活用協議会負担金、人件費、物件費等の補正を合わせて総額82,039千円が追加され、歳入歳出総額が、34億45,039千円となりました。



傍聴席も新しくなりました

介護保険特別会計では、利用負担などの変更に係るシステムの改修等、1,997千円を追加し、歳入歳出総額が、7億2,924千円となりました。

簡易水道特別会計では、人件費の補正として51千円を減額し、総額64,949千円となりました。

一般質問の内容については、5ページから11ページに掲載してあります。

4月臨時会

4月30日
開催

専決処分……4件
工事契約……1件
選任同意……1件

専決処分の報告承認

法律等の一部改正に伴う、
 税条例の一部改正及び国民健康保険税条例の一部改正に係る専決処分について、また、平成26年度一般会計補正予算、同介護保険特別会計補正予算に係る専決処分について報告があり、全て承認されました。

※専決処分

地方公共団体の議会の権限に属する事項を所定の要件の下で、議会の議決を経ることなく決することができる処分。

工事請負契約の締結

「役場庁舎裏急傾斜地対策工事」の契約金額が、5千万円以上となるため条例の規定によって、議会の議決を求められたものです。審議の結果、全会一致で原案可決されました。

工期…平成27年5月1日～
 平成27年11月16日
 契約金額…56,700千円
 相手方…昭和建設株式会社

球磨村固定資産 評価員選任

4月1日の人事異動に伴い、税務課長に任命された東勝信氏が、新たに選任同意されました。



平成27年4月臨時会 議案等の審査結果

番号	件名	審議結果
承認第1号	専決処分手項報告承認について (球磨村税条例の一部を改正する条例の制定)	原案承認
承認第2号	専決処分手項報告承認について (球磨村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定)	原案承認
承認第3号	専決処分手項報告承認について (平成26年度球磨村一般会計補正予算)	原案承認
承認第4号	専決処分手項報告承認について (平成26年度球磨村介護保険特別会計補正予算)	原案承認
議案第24号	工事請負契約の締結について	原案可決
同意第1号	球磨村固定資産評価員の選任同意について	原案同意

平成27年6月定例会 議案等の審査結果

番号	件名	審議結果
報告第1号	平成26年度球磨村一般会計予算繰越明許費繰越計算書について	報告
報告第2号	平成26年度球磨村介護保険特別会計予算繰越明許費繰越計算書について	報告
議案第25号	球磨村介護保険条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第26号	平成27年度球磨村一般会計補正予算について	原案可決
議案第27号	平成27年度球磨村介護保険特別会計補正予算について	原案可決
議案第28号	平成27年度球磨村簡易水道特別会計補正予算について	原案可決

常任委員会の報告



梨農家での現地調査

産業厚生常任委員会（5月22日）

1. 調査内容

村内梨園における、交配不良による着果不足が深刻なので現地調査を行う。

2. 調査結果

長雨、低温により着果がよくない。例年の半分以下のところも。資金融資などの相談があれば乗るように。また、県、JAとも連携し着果不良が起こらないような対策を取るように担当課に申し入れる。

総務文教常任委員会（7月1日）

1. 調査内容

企画振興課が担当する、一勝地温泉「かわせみ」の運営状況、「かわせみ」屋根に設置された太陽光発電（ソーラーパネル）の効果。田舎の体験交流館「さんがうら」の運営状況。地方創生に関わる球磨村版総合戦略の策定状況についての事務調査。

2. 調査結果

かわせみについては、宿泊者を増やすような方策を実施すること。宴会の料理をいくつか選べるメニューにすること。原価率が高いので、改善をすることなどを要望。また、ソーラーパネル設置効果は、電気料金がマイナス5%程度の効果である。設置したことにより、新たな経費が生じていないか調査するよう申し入れる。地方創生については、有識者会議を開催し事業策定を進める予定になっている。再度、8月に委員会を開き、策定状況を審査することにした。

総務文教常任委員会（6月1日）

1. 調査内容

総務課が管轄する情報通信料（テレビ・インターネット）、住宅使用料、土地貸付料の滞納状況についての事務調査。

2. 調査結果

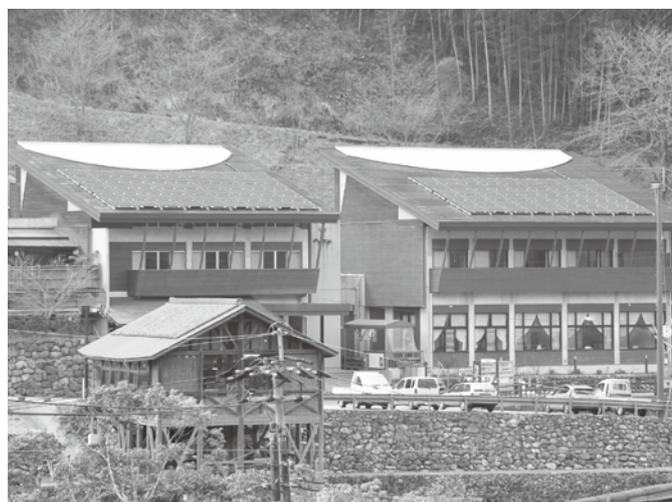
特にテレビ使用料について、運用が始まって3年経過するのに、いまだ利用者からの口座引き落としの手続きが完了していない。事務手続上の問題で滞納となっており、早急（11月まで）な解決を申し入れる。

産業厚生常任委員会

委員長 田代 利一
副委員長 舟戸 治生
委員 小川 俊治
委員 犬童 勝則

総務文教常任委員会

委員長 多武 義治
副委員長 高澤 康成
委員 松野 富雄
委員 嶽本 孝司
委員 浅野 茂



かわせみ屋根に設置されたソーラーパネル

村長2期目の挑戦の考えは

【答】 まだ後援会にも相談していない

田代 利一 議員

1. 施政方針について
2. 村長選挙について

田代議員

柳詰村長4年目として、新たな施策を展開する上での村政報告地区座談会の計画はあるのか伺う。

柳詰村長

地方創生への取り組み、村長任期中の政策等について説明するために、8月中実施で計画している。

田代議員

計画は行政区か校区単位の開催か。また、担当職員の出席は。

柳詰村長

村長以下二役、全課長、各地域の職員、担当職員の出席とする。

田代議員

次に、県道、村道の維持管理状況と県への上申について伺う。

柳詰村長

県道は球磨地域振興局土本部において管理されており、週2回から4回の巡視、パトロールや草払い作業、落石等の緊急対策が行われている。また、村道は維持管理計画を立て、定期的な道路巡回や異常発見の報告があった時は、道路側溝及び暗渠の堆積土砂の除去や、舗装の修繕、道路の補修、除草など可能

な限り行っている。県が維持管理している国道、県道に対しては、村民からの情報や要望を把握し、業務進捗が図られるよう連絡を密にし、伝えていく。

田代議員

県道高沢線の改良について、用地交渉が進んでいないと聞いているが、平成27年度着工ができるのか伺う。

大坂間建設課長

用地交渉後の登記で時間を要している。県の予算はついているので、平成27年度に着工したいとの報告を受けている。

田代議員

県道人吉水俣線の宮園地区の拡張及び、橋詰、野々原地区の側溝改良要望について伺う。

大坂間建設課長

宮園地区の要望は平成28年度要望として県に上げた

い。橋詰、野々原地区の側溝整備については平成27年度要望として上げ

ている。

中根教育長

通学路として整備を要望し、実現に努めたい。

田代議員

次に、消防団の現状と消防団員の功労金の見直しについて、

20年以上勤続を、1年あたり上乗せ3万円にできないか伺う。

柳詰村長

基本団員は226名であり、団員の確保は最優先課題。勧誘を粘り強く実施していきたい。3万円の上乗せについては検討したい。

宮本総務課長

現在の上乗せ功労金1万5千円は平成21年度より実施してから7年が経過しており、3万円にする

と100万の予算化が必要となる。十分な協議をさせていただく。

田代議員

各団の定数割れに対しての考えは。

宮本総務課長

条例定数でありながらも、実働となる人数を把握しながら、即実践力になるような人数にしていかなければならないのが現実と思う。

柳詰村長

各分団で団員の確保状況は異なっている。定数については考えなければならぬと思うが、団員確保についてもいろいろな面からも力を入れたい。

田代議員

次に、ジビエ加工施設の現状について伺う。

柳詰村長

平成22年7月から2人体制で稼働、平成24

年から平成26年まで1人体制できたが、現在休止状況。これまで240万円を売り上げた。

田代議員

施設運営はジビエ協議会か、村なのか。また、加工処理する人について公募するのか伺う。

永椎産業振興課長

施設は村が改修した。村としては、軌道に乗れば協議会での運営を希望していた。また、今度の広報で公募する予定だ。

田代議員

次に、村長2期目の挑戦の考えは。

柳詰村長

まだ後援会にも相談していない。



ジビエ加工処理施設が入る旧球磨中寄宿舎

田舎の体験交流館「さんがうら」の4年間の実績の評価は

〔答〕体験施設として知名度も上がっている

犬童 勝則議員

1. 田舎の体験交流館「さんがうら」の運営について
2. 梨農家の被災状況について

犬童議員

田舎の体験交流館「さんがうら」は、館長（村長）をはじめ行政、地区、棚田保存会、地域団体など、約30名の運営委員を母体としている。平成23年より運営を開始し、今年で5年目を迎えた。これまでの4年間の実績の評価とこれからの改善点を伺う。

柳詰村長

毎年、利用や視察が多くなっており、この4年間に体験施設として徐々に知名度も上がってきていると思っている。

犬童議員

将来に、法人化についてはどう考えているか伺う。

柳詰村長

当初は法人化運営ということで設置されたようだが、なかなか収益が伴わない厳しい状況だ。法人化については考えておらず、補助事業を使つての運営となっている。

犬童議員

来館の目的もさまざまな

ようだが、平成26年度の宿泊施設、体験、食事の来館者数は。

金栗企画振興課長

26年度の来館者数は宿泊者が1,095人、施設の使用者1,378人、食事の利用者3,421人、体験者64人、会議・研修等の参加者341人、合計6,299人となっている。

犬童議員

さんがうら委員会の、地域資源の活用という点で具体的な取り組みは。

金栗企画振興課長

里山散歩、田植体験、稲刈りとかけ干し体験など。また、山の品物を使ったしめ縄づくりやみそづくり体験など具体的に地域資源の活用を行っている。

犬童議員

グリーンツーリズムの推進で、さんがうら周辺には梨、イチゴ、棚田米、椎茸など自然豊かな財産がたくさんある。そこで、村は棚田オーナー制度も企画しているようだが、現在の申込み状況は。

金栗企画振興課長

今年度初めて取り組む事業で、現在21家族、団体、個人での申込みがある。

犬童議員

地域観光資源の活用として棚田百選に選ばれた松谷棚田に、今年から棚田百選農地保全支援員を置いて活動内容は。

柳詰村長

棚田を再生、維持管理をする専門員が必要と考え、地元松谷地区の方を支援員としてお願いしている。

犬童議員

村内の梨農家は、4月の開花期の長雨、そして低温の影響で実どまりが悪く、大変深刻のようだが、被害状況は把握しているのか。また、その対策として行政からの支援はないか伺う。

柳詰村長

着果調査を実施したところ、5割程度しか着果しておらず、被害は深刻で減収が懸念される。村の補助事業においても、支援できるような事業はないようだ。

犬童議員

村の補助事業で、支援できるような事業はないという事だが、前例で、平成16年大型台風により甚大な被害を受け、村が利子補給し補助事業が行われたようだ。その時の内容を伺う。



知名度も上がってきた田舎の体験交流館「さんがうら」

永椎産業振興課長

平成16年台風被害によって、農業経営維持安定資金の名目で融資を受けられた経緯がある。融資の申し出があれば、県、村、JAと協議をしながら進めていきたい。



地方創生（球磨村版総合戦略） 今後の予定は

〔答〕 内部や有識者会議で検討し8月にまとめる

多武 義治議員

1. 地方創生に係る球磨村版総合戦略の策定状況
2. 空き家対策特別措置法を受けての今後の取り組み

多武議員

昨年国において、まち、ひと、しごと創生法が成立した。目的は、地方創生の一環として、少子高齢化に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかける狙いがある。まち、ひと、しごとのまちでは、豊かな生活を安心して営める地域社会の形成、ひとでは、地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保、しごとでは、地域の魅力ある多様な仕事の創出が基本的な考え方となっている。これを受け、今後5年間の球磨村版総合戦略を策定中と思うが、今後の予定は。

柳詰村長

今後、5年間の地方版（球磨村版）総合戦略を策定するため、内部や有識者会議で検討し、8月をめどに取りまとめ、10月に公表

する予定だ。

多武議員

議会も事業の策定には、地域に合った取り組みになるよう知恵を出し合っていくことが大切である。そこで、7月と8月と委員会を開き、策定内容を審査しながら意見を申し上げていきたい。

柳詰村長

これから開催する有識者会議のメンバーは、地域の代表の方や、行政、産業、教育などの関係者を予定している。そこに、議会の常任委員長にも、メンバーに入ってもらいたい。

多武議員

これから5年間の計画は、地域に合った特色ある事業でない、国も採択しないのではないかと考えている。そこで、参考までにいくつかの意見を申し上げる。まず、空き家対策とも関連するが、住宅リフォームの補助を最大100万円ぐらいにできないものかと考えている。また、婚活イベントを定期的に実施したらどうか。

柳詰村長

生活環境を整え、若い世代の希望をかなえるという点で、地

方創生の事業との整合性はとれていくと思う。

金栗企画振興課長

地方創生の人口減少対策として、若者の結婚も有効な対策だ。婚活イベントをブライダル会社なども協力して、今年数回やってみたい。

多武議員

地域を見わたすと、買い物弱者が増えていくのが実感だ。高齢者が見まわりまで含めた対策を何かやっていく必要がある。また、村の3割程度が限界集落と位置づけられている。これから、住んでいる人の意見を聞きながら、各地域の核となるところに人を集める対策も考えなければいけない。

柳詰村長

買い物支援と限界集落については、時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るということで、小さな拠点づくりを私も考えている。

多武議員

林業研究会を立ち上げ、苗木づくりをやればとの話が出てくる。林業関係のOBで技術者もおり、苗木の需要もある。また、作る

ところは耕作放棄地を考えており、条件はそろっている。

柳詰村長

苗木づくりは、いいことだと思っている。ぜひ、林業研究会を立ち上げていただき、その中で支援も検討していきたい。

多武議員

次に、5月に空き家対策特別措置法が施行された。これを受け、今後の村の対応は。

柳詰村長

昨年、空き家調査を行い、163戸の空き家を確認している。今後は、空き家を活用した移住定住促進事業として、本格的に調査を行うことにしている。



村では地方創生総合戦略策定中
地域に合った取り組みが望まれる。

共助のむらづくり支援事業の事業実績は

【答】78件の活用があり活気あふれる
地域再生への第一歩が踏み出せた

舟戸 治生議員

1. 共助のむらづくり事業について
2. 林業の振興
3. 地域観光資源の活用

舟戸議員

安心・安全な水資源の確保策として、村有林の伐採収益の一部を水資源基金としている。その基金を活用し、漏水化した水道施設などの改修を図り、安心・安全な水資源の確保に努めている。これまでの、簡易水道事業統合の経緯や、事業統合計画について伺う。

戸屋健康衛生課長

統合計画については平成21年9月に球磨村簡易水道事業統合計画を厚生労働大臣宛てに提出している。計画では事業統合に係る基本方針として、村で管理している公営水道事業等については全て事業統合を行い、球磨村簡易水道事業に一本化することになっている。

舟戸議員

昨年、共助のむらづくり支援事業補助金が設けられ、今後も特色ある活発な地域づくりに期待さ

れている。昨年の事業実績とユニークな地域活動があれば伺う。

柳詰村長

積極的な地域活動を推進するために、共助のむらづくり支援事業補助金を設けたが、祭り、イベント、文化活動、生活環境整備、自主防災や安全対策など合計78件の活用があった。活気あふれる地域再生への第一歩が踏み出せたものと思っている。

今後、さらに地域の自立した特色ある活発な地域づくりが推進されることを期待している。

舟戸議員

次に、農林業の振興について、球磨村の森林、林業、木材産業の現状について伺いたい。

柳詰村長

林業においてはなかなか景気が回復していない現状である。高齢化や担い手不足等の影響で、山林従事者が少なくなっているのも事実である。平成25年から毎年10haの村有林の伐採と、造林整備を行う方法正林化の取り組みで、雇用の創出と人材育成、そして村民の所得向上を行う重要な施策として取り組

んでいる。

舟戸議員

健全な森林整備の計画は。

柳詰村長

生産基盤の整備については、現在、林道の開設を初め、毎年計画的に作業道の開設を行っている。

舟戸議員

平成27年度の観光について、どのような構想を持っているか伺う。

柳詰村長

これまで観光振興策として、くま川沿線の国道や、県道、肥薩線沿いなどの景観整備に務め、村内外に自然の豊かさをPRしている。今後はふれあいまつりや、急流と鍾乳洞の里まつりで、村を挙げたイベントに持っていきたいと考えている。

舟戸議員

かわせみなど地域観光資源のおもてなしは、外国の方に対してどのような対応をされているのか伺う。

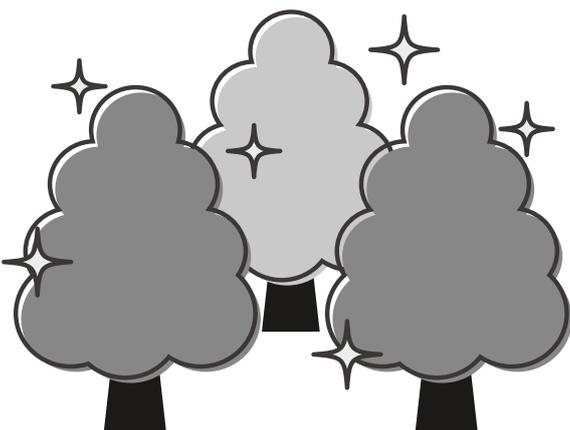
金栗企画振興課長

言葉の対応としては、日本語を翻訳できるタブレットもあるのですが、今後対応していくつもりだ。おもてなしという点では、日本人の真心を外国の皆様にお示し



「かわせみ」では外国人観光客が増えてきた。

する、それが一番だと思っている。



区長と班長を兼任していけない措置を

〔答〕各地区のやり方で決まっている。強制的に変えることはできない。

嶽本 孝司 議員

1. 30年前のふるさと創生事業について
2. 村道峰山口線の進捗状況
3. 班長活動費助成金について
4. 村工事請負業者選定要領について

嶽本議員

30年前、国のふるさと創生事業として、各市町村に1億円が交付された。本村では、人材育成に使っているが、現在の基金の状況は。

柳詰村長

本村では、元老人憩いの家で、現在一勝地温泉「かわせみ」



幅員が狭い峰山口線

別館となっている施設の改修に2千万円を使い、残りの8千万円を積み立てた。その基金は、今では地域づくり、人づくりを推進するため、人材育成を目的に使用している。平成2年度から運用を始め、現在まで1,066人、7,433万円が活用され、3,797万円が基金として残っている。

嶽本議員

次に、村道峰山口線について、地下踏切横から村道大無田線までを結ぶ区間を、改良してほしいとの地域からの要望がある。これまでに、村からの説明会もあり、今年6月までには実施できると期待していたが、現在の状況はどうなっているのか。

大坂間建設課長

地元説明会を、昨年9月と11月に行い、測量設計を今年の1月まで行った。現在、事業費となる財源の調整を行っているところで、都合がつけば用地交渉から始めて行く予定になっている。

嶽本議員

それは、いつ頃になるのか。

大坂間建設課長

渡地区は、他にも

要望がある水害時の避難道など、全体的に考えていきたい。今のところ、いつとは言えない。

嶽本議員

次に、今回の補正予算で、これまでの班活動助成金が、班長活動費助成金になり、約200万円増額されている。適正と思っているのか。

柳詰村長

今回の補正予算に計上し、班長の位置づけを明確にして活動を支援することにした。班長は、各班の調整を行っていただいているので、それぞれの立場に対して直接班長に支給することになっている。金額は均等割として、一律3万円とし、世帯割りが1戸2,500円掛けの戸数とし、2つの合計を活動費としている。

嶽本議員

平成20年に、現在の21行政区に再編した。以来、地域からいろいろな問題点が出ているが。

宮本総務課長

区長に比べ、班長の活動に対しての支援が少ないのではないかと話がある。その少ない分を補うため、班の住民の方が負担している状況である。したがって、班長の活動費を増額し、直接班長に支

給することになっている。

嶽本議員

区長の活動費よりも、班長の活動費が多いところもあるが。

宮本総務課長

当然で、世帯数が多くなれば金額も多くなる。

嶽本議員

班長の活動費を、こんなに上げる必要があるのか問題だ。また、区長と班長を兼任しているところがあるので、兼任してはいけない措置を取るべきだ。

宮本総務課長

それぞれ、各地区のやり方で区長と班長が決まっている。行政が、それを強制的に変えることはできない。

嶽本議員

次に、県工事で渡地区において死亡事故が発生し、その業者は、県から1ヶ月の指名停止となった。この間、業者に村工事の入札に参加させたのはなぜか。

大坂間建設課長

村では、工事請負に係る指名停止の措置要領を定めている。今回の事故は、これには該当せず、指名停止措置はしなかった。



施策評価の適正数値は

【答】満足度70%以上を目指す

小川 俊治 議員

1. 地方創生について
2. 共通番号について

小川議員

まち・ひと・しごと創生にむけての政策策定に当たり、5原則があるが、村としての受け止めと方向について伺う。

柳詰村長

本村の施策を進める上で最も重要な項目であると認識している。人口減少の克服と本村のさらなる創生を確実に実現するためしっかりと受け止め、取り組んでいく。

小川議員

地方創生の政策に当たり最も大事なものは、現在村が抱えている現状をしっかりと見ること。客観的なデータを分析し、施策に反映させ盛り込むことが出来るかである。今後の調査、分析、集約の方向を伺う。

金栗企画振興課長

データ分析については、公募型の※プロポーザルにおいて進める。その中で住民アンケート調査を実施し、長期の人口ピ

ジョンを見ながら進める。

小川議員

有識者会議での審議もあるが、幅広く、直接住民の意見を聞く機会の考えはないのか。

柳詰村長

政策策定スケジュールからして、地域の方々の意見を聞くことは難しい。8月の初めに座談会等の実施ができれば、少しはその方向もある。有識者の選任も幅広く行い、意見を聞きたい。

小川議員

5原則の中でも最も大事な※PDCAについて伺う。目指すべき成果が具体的で、適切な数値で示された上で、評価、検証するプロセスの考えは。

金栗企画振興課長

平成26年度の創生型の9事業もPDCAを求められている。例えば、共助の村づくり支援事業での効果がどれだけあるかは、満足度70%以上を目指している。満足度の検証は各団体での取り組みについて意見を聞くことによる評価になると思う。有識者会議でも評価をしていただく。

小川議員

村の後期基本計画の実行

と地方創生の政策との整合性について伺う。

柳詰村長

村の基本構想、後期基本計画とまち・ひと・しごと創生の戦略は、両方見ながら推し進める。

小川議員

次に、共通番号マイナンバーが来年1月から運用となるが、年金機構から基礎年金番号の個人情報報が流失したこともあり、国民の不安はさらに増大している。現在の準備状況について伺う。

柳詰村長

番号制度に対し、個人情報の保護の観点から、外部漏洩、または個人番号の不正利用の懸念もある。今後共通番号制について広報誌、あるいはパンフレットを通じて詳細な説明、あるいは手続きの仕方などを周知する。個人情報保護については、条例を制定し運用しているが、新たな番号法に基づき、システム面における保護措置として、個人情報を一元的に管理せず、分散管理を実施し、アクセスできる人の制限、管理を行う。制度面では、特定個人情報報の収集、あるいはファイナルの作成の禁止、罰則の強化などを盛り込んだ条例整備を行う。

小川議員

年金機構からの情報流失について、国から何らかの指示がされたか、村としての対応を伺う。

板崎住民福祉課長

国からの指示はない。今後職員へのセキュリティ対策業務に対する意識の維持向上を図り、研修等を行う。

※プロポーザル複数者に企画提案してもらい、その中から優れたものを選ぶこと。

※PDCA II 仕事をどのような過程で回すことが、効率よく業務が行えるようになるかという理論。

いよいよ
マイナンバー制度が

社会保障・税番号制度

始まります。



マイナンバー制度は今年10月から運用予定

